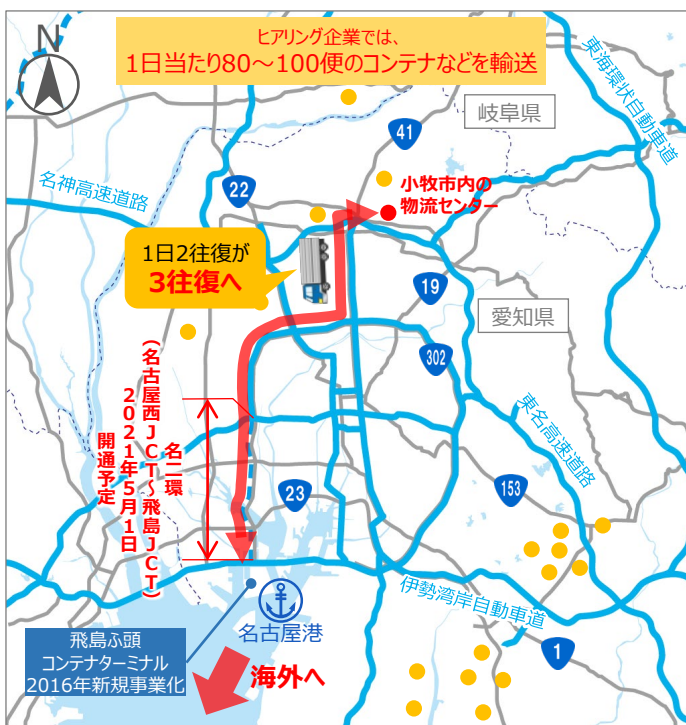




名古屋港のコンテナ貨物

名古屋港への物流の動き



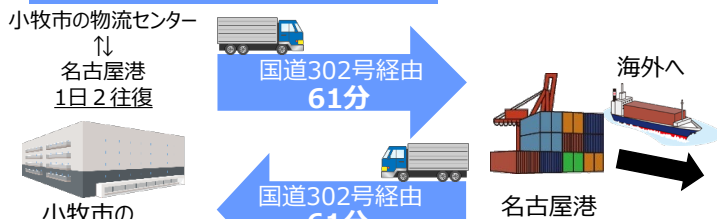
凡例
● 自動車関連 (部品センターおよび仕入れ先)
● 物流センター

- 名古屋港飛島ふ頭のコンテナターミナル整備により、海外向けのコンテナ貨物取扱量は、約20年で3倍に増加。また、飛島ふ頭取扱コンテナの約4割が小牧・岐阜方面へ輸送。
- 名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）の整備により、所要時間が短縮され、小牧市～飛島ふ頭間の物流の回旋数が増加（1日2往復→3往復）と物流が効率化。
- 名古屋環状2号線全線開通と飛島ふ頭のコンテナターミナル整備*で、物流機能の強化による相乗効果の発揮が期待。

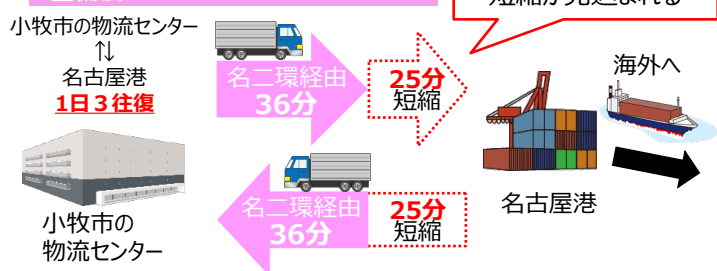
*飛島ふ頭のコンテナターミナル整備：水深15m岸壁（耐震）

名古屋港への物流のイメージ

名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）整備前



名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）整備後

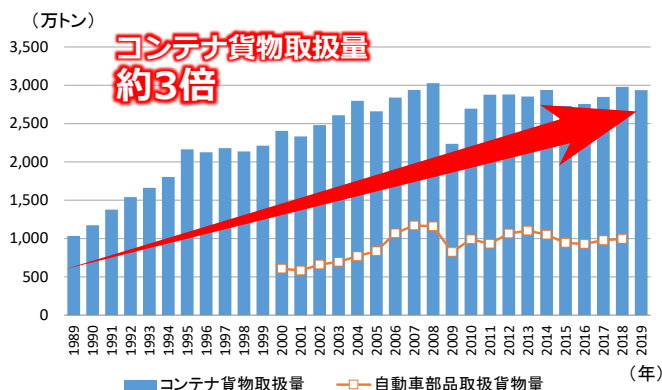


往復で約50分の短縮が見込まれる

所要時間短縮により、2往復→3往復

*名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）の所要時間は設計速度（60km/h）にて算出
国道302号の所要時間は平成27年度全国道路・街路交通情勢調査結果より算出

飛島ふ頭のコンテナ貨物取扱量の推移



出典：名古屋港管理組合「名古屋港統計年報」
*公表されている自動車部品貨物取扱量は2000年からのみ

企業の声

飛島ふ頭と小牧市の物流センター間で、1日当たり80～100便のコンテナなどを輸送しています。
トラックドライバー不足を補うため、物流の効率化を検討しています。名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）の整備により、1日の回旋数が2回から3回に高められます。
[企業ヒアリング結果より]

